

■ 都市課題

中心市街地の魅力・情報発信不足、空き店舗等の増加

- 1) 商店街における空き店舗の発生、空き店舗率の増加傾向
- 2) 中心市街地における低未利用地
- 3) 市民活動スペースの不足
- 4) 中央通り等の各種公共施設の老朽化・魅力低下
- 5) 民間投資の誘発
- 6) 中心市街地の魅力発信不足

高い自転車利用率、歩行者回遊性の不足、観光需要の掘り起こし

- 1) 高い自転車利用率
- 2) 中心市街地における滞留空間及休息空間の不足
- 3) 近四日市駅周辺の土地利用の衰退
- 4) 近鉄四日市駅周辺の低交通利便性
- 5) 観光需要の掘り起こし

官民連携の推進、質の高い維持管理・活用の実現

- 1) 官民連携による質の高い維持管理・活用方法の具体化
- 2) 中央通りにおけるエリアマネジメント主体の不在

■ 解決策

事業① 利活用空間活性化ツールの構築

※ハード整備により生まれたオープンスペースを「利活用空間」に定義

事業② 四日市版MaaSの構築

事業③ パーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築

事業④ 中央通りにおける3D都市モデルを活用したプランニング／マネジメント・ツールの構築

AIカメラや環境センサ※により、利活用空間の人流・密度・属性・環境情報や交差点における車両の渋滞情報などをデータ取得し、ローカルSG※やデータプラットフォームを活用して、データ蓄積や可視化を行い、即時的な防災・交通情報等の緊急情報を発信するとともに、ポータルサイトとタッチパネル型デジタルサイネージを通じて、情報発信する；**データ可視化サービス**（※は別事業で整備）

このサービスにより、効果的なデータ活用方法および情報の見せ方を明確化することにより、より市民・来訪者および民間事業者のニーズに即した使いやすさ、使われるサービス実装つなげ、中心市街地の魅力発信、さらには民間投資の誘発につなげる。

デジタルマップやデータプラットフォームを活用し、公共交通や自動運転等との連携を図り、利便性を向上させる。また、デジタルマップに、駐車場満空情報やまちなかの店舗、公共施設情報を重畳・連携させることで、まちなかの回遊性を促進する。；**四日市版MaaS**

このサービスにより、公共交通の利便性が向上することに加え、まち歩きを促進させ、歩行者回遊性向上を目指す。

3D都市モデルを活用し、歩行者空間上のオープンスペース及び周辺の未利用の土地・建物に関する空間情報（場所、周辺環境等）を公開し、空間を使いたい人と使ってほしい人のコミュニケーションを促進し、マッチングを促す**沿道空間利用マネジメントシステム**サービスの展開を行う。

このサービスにより、利活用が促進され、来訪者が多くのイベント・商業活動に触れる機会が増える。その結果、官民連携による管理運営やスマート技術による空間マネジメントが促進され、**中心市街地のエリア価値向上にも繋がる。**

中央通りの地下埋設物の**デジタルインフラ台帳**を構築することで、民間事業者の埋設物照会作業・施工協議の負担軽減が期待され、市は、インフラ維持管理業務の効率化が期待できる。

このサービスにより、**沿道土地利用検討の迅速化に繋がる**とともに、被災後、迅速な状況確認・機能回復が可能となり、**市民の安全・安心の向上にも繋がる。**

■ 事業全体のK P I

KPI	実績値	目標値（令和6年度）
中心市街地の歩行者流量 <small>（中心市街地歩行者数に占める割合を平均値とする）</small>	53,777人 53,973人 <small>（1. 実績、2. 目標、3. 実績/目標）</small>	60,700人 62,400人 <small>（1. 実績、2. 目標）</small>
路線バス利用者数 <small>※日別利用状況に関するデータは過去1ヶ月分の日別利用状況を掲載している</small>	7,979人/日 <small>（令和6年度実績）</small>	8,000人/日
新たに整備される中央通りにおけるイベント開催日数	—	12日/年以上
スマートシティ（ポータルサイトの）アクセス数 <small>（スマートシティポータルサイトのアクセス数）</small>	—	50,000件/年
データ利活用によるサービス提供、イノベーション創出 <small>（3D都市モデルを活用したユースケース件数）</small>	3件 <small>（令和6年度実績）</small>	5件以上
中央通りの利活用空間におけるイベント開催時の歩行者流量 <small>（イベント開催日とイベントの無い日の同じ場所・時間帯における1時間あたりの歩行者流量の比較）</small>	—	イベント開催時の歩行者流量が10%増
中央通り沿道の未活用空間における新たな利活用件数 <small>（沿道空間利用マネジメントシステムを通じたユースケース件数）</small>	—	3件/年以上
デジタルインフラ台帳の活用による地下埋設物に関わる業務の効率化 <small>（データ閲覧およびダウンロード件数）</small>	—	5件/年以上
デジタルインフラ台帳の更新によるデータの信頼性の維持 <small>（データ更新回数/地下埋設物の工事箇所数）</small>	—	100%

■ 実証実験の概要・目的

【事業③ 沿道空間利用マネジメントシステム】正式版（ドラフト）に基づく社会実験・システム体験会の実施、システムの実装化に向けた課題の整理

■ 実証実験の内容

令和6年度補正の実施内容

事業③ パーチャル空間におけるコミュニケーション・ツールの構築

R6年度の実証結果を踏まえた正式版（ドラフト）を構築し、システム体験会および社会実験を実施した。システム体験会では商店街関係者および社会実験協力者に試用してもらい、社会実験では実証で実証者にシステムを活用してもらったうえで、ヒアリング・アンケートを実施した。

■ 正式版（ドラフト）の構築

- R6年度の実証結果を踏まえたで件整理、システム改修案の作成を行い、正式版（ドラフト）を構築した。
- 具体的には、さらなる利活用を促すために対象場所の空間情報に加え、周辺の環境情報を把握するために、3D都市モデルの画面を閲覧できるようにする。更に、サービス対象のオープン化、対象エリアを拡大、人流データ取得ポイント・予約状況・活用実績の追加などサービス内容の拡張を行う。
- 加えて、昨年度の実証システム体験会で得られた意見を基に、トップページ構成の簡素化、ボタンデザインの改善、絞り込みフィルタの視認性向上、空間情報ポップアップの全画面表示化などユーザビリティの改善を行った。

■ 社会実験・システム体験会等におけるヒアリング・アンケートの実施

- 2025年5月・6月には、中央通り周辺（一番街商店街、中央緑地帯、市民公園前）において社会実験「ニワミチJOYnt Park Days」を実施した。具体的には、出展スペースの情報を地図上に表示し、そのシステムを活用して出展者とのマッチングを行った。その後、出展者および商店街関係者に対して、事前ミーティング、社会実験当日、事後ミーティングを通じてヒアリング・アンケートを実施した。
- 2025年12月・2026年1月には、構築した正式版（ドラフト）を用いてシステム体験会を実施した。具体的には、四日市市の空間を知っている商店街関係者・社会実験協力者、および四日市市の空間を知らない大学関係者に対して、システムを試用してもらい、マッチングを促進するための人流データの有用性、使用者評価情報の有用性、効果的な情報表示方法、使い勝手、商店街活性化への寄与についてヒアリング・アンケートを実施した。

■ 実証実験で得られた成果・知見

得られた成果・知見（令和6年度補正）

■ システムのユーザビリティと情報有用性

前年度の課題を踏まえた改修により、システムの操作全体のスムーズさについては88%のポジティブな評価を獲得し、昨年度の51%から大幅に改善した。

一方で、情報の有用性に対するポジティブな回答は全体の48%となり昨年度の62%を下回った。


■ 商店街活性化への寄与

本システムが商店街の活性化への期待が高まったと回答した割合は71%となり、KPIを達成した。加えて、中央通りを利用したいと回答した割合は83%、中央通りへの興味が増したという割合は75%、「まちの活性化にシステムが有用である」と回答した割合は75%となり、本システムの有用性が示された。

■ 運用体制とルールに関する知見


現段階では、イベント主催者やイベント出展者が本システム上で利用可能な空間を検索した上で、参加申請フォーム（外部リンク）から利用希望日および利用したい空間を申請し、システム管理者である四日市市が当該申請内容を確認・承認した後、システム上のカレンダーに決定したイベント情報を掲載するという運用プロセスとしている。

成果の一部



トップページと空間探検ページの改修イメージ

成果の一部



■ 今後の予定

- 正式版のリリースと運用**
実証実験の結果を踏まえ、R7年度中に正式版システムをリリースし、R8年度から本格的な運用を開始する。過年度の経緯を踏まえ、段階的な改善を継続しながらサービスを運用する。
- 運用体制の段階的移行とルールの精査**
現段階では四日市市がシステム管理者となっているが、将来的には地域のまちづくり組織への業務委託を通じて、システム運用を段階的に地域主体へ移行していく。そのために、システム管理にあたってのルールの精査等を行う。
- 官民連携による自律的・持続的な仕組みの構築**
中心市街地における中央通り、バスタ整備など公共空間の拡充を推進する中で、沿道空間利活用マネジメントシステムを活用し、公共だけでなく地域のまちづくり組織も含めた官民連携により、自律的・持続的な仕組みの構築を目指す。